

背景 頷きと首振りといった動作は日常の中で行われる様々なコミュニケーションの中で何気なく行われているが、自分の態度を相手に伝えるにあたって重要な動作であるとされている。頷きや首振りが主観的な印象に与える影響を検討した研究により頷きには相手に対する主観的印象である好ましさと近づきやすさを高める効果があるとされている(大杉 2016)。また、話し手は相槌や頷きのある聞き手に対してかなりの感情的・社会的な魅力を感じて好意をもつとされ、相槌や頷きといった強化がある対話状況は楽しいというポジティブな感情に結びついているとされ、相槌や頷きのない状況は不愉快というネガティブな感情と結びついているとされている(川名 1986)。他にも対話場面における頷きや相槌といった動作は相手の発言に対する承認を示し話し手のさらなる発言を促す効果があるとされている。会話に対する評価(会話満足度)は会話が終了した後で会話に参加していた人間がその会話に対して下す評価のことを指している。会話に対する評価を測るために会話に対する評価に関する質問として使用された。項目内容として用いられたのは主観的ラポール感に関する 18 項目尺度の質問文が邦訳されたものである(木村, 余語, 大坊 .2005)。

目的 本研究では、以上の先行研究を踏まえて頷き・相槌の有無によって会話の満足度に与えられる影響を2者間の会話実験と質問紙を用いて検討する。

方法 実験参加者は千葉県内の大学生を対象に募集した男性6名(話し手5名、聞き手1名)と女性8名(話し手5名、聞き手3名)であった。実験場所は淑徳大学千葉第1キャンパス内にある1対1での会話が可能なスペースが確保されたカウンセリングルームであった。

2023年11月13日から2023年12月1日までを日程として参加者たちの都合に応じて実施した。「会話満足度尺度」として木村,余語,大坊(2005)において用いられている主観的ラポールに関する18項目尺度の質問項目を用い、これに会話に関して感じたことや考えたことを回答できる自由記述欄を設け合計19問からなる質問紙を用いた。

実験の流れ；この実験では聞き手の頷きや相槌が条件を分ける重要な要素となるため、まず聞き手役の参加者には個別に教示を行ってから聞き手役と話し手役の双方を交えた上での教示を行い1回目の会話(聞き手による頷き・相槌あり)、質問紙への回答(1回目)、休憩、2回目の会話(聞き手による頷き・相槌なし)、質問紙への回答(2回目)、デブリーフィングという流れであった。

結果 実験の中で本研究の研究対象である話し手役の参加者 10 名が聞き手の頷きあり、頷きなしの 2 条件それぞれでの会話終了後に回答した会話満足度尺度の得点を Excel にて集計し、逆転項目の処理等を行い算出された結果は頷き・相槌あり条件での会話の方がいずれの参加者も得点が高くなっていた。対応のある t 検定の結果、条件感の差は有意なものであった ($t(10) = 8.41, df = 9, p < .001$)。 (次の Table1 をグラフにしたものが下のグラフ 1 である)

table1

条件別会話満足度得点の t 検定の結果およびそれぞれの平均値と標準偏差

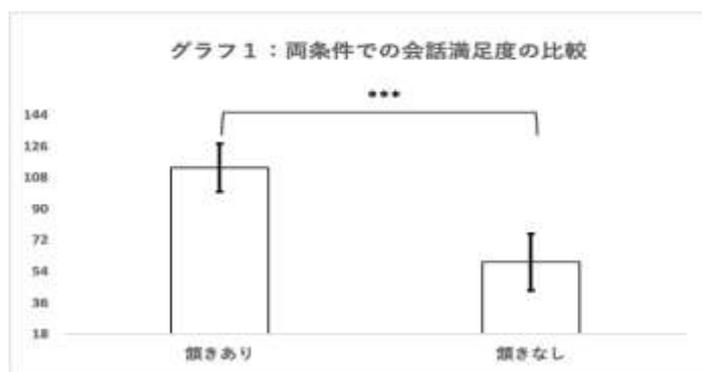
	頷きあり (n=10)		頷きなし (n=10)		t値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
会話満足度	113.40	13.79	59.30	16.40	8.41 ***

*** $p < .001$

結果のまとめ

会話満足度得点は頷きあり条件と頷きなし条件とで頷きあり条件のほうが

高く、また、対応のある t 検定の結果からこ



の条件間の差は有意であることが確認された。また、会話に関する自由記述への回答内容も頷き・相槌あり条件においては「楽しかった」「話しやすかった」といった内容であったのに対して頷き・相槌なし条件においては「緊張した」「不安になった」といった内容であった。

考察 以上の結果について、相槌・頷きがあることによって相手である聞き手に対してポジティブな印象が生じたこと、会話全体の雰囲気話しやすく楽しいものになったことによって積極的な会話が促進されたことにより、頷きのない条件よりも話し手は自身の話したいように話すことができたために会話に対する評価（会話満足度）が上昇したと考えられる。本研究に関する限界点として、実験における場面設定が限定的なものであったことにより、今回の実験において想定された場面とは異なる場合においても同様の結果が得られるかどうかは本研究の結果からは判断できないのである。今後の展望としてさらに多様な場面設定のもと会話実験を実施したうえでの分析を行うことにより頷きや相槌を打つことの効果をより多角的に検討することが可能になると考えられる。また実験参加者をより多く募ることができれば聞き手側の会話満足度についても検討していくことができると考えられる。

引用文献 ・大杉尚之 河原純一郎 2016 頷きと首振り顔の主観的印象に及ぼす影響 認知心第 14 回大会 ポスター P3-29 /川名好裕 1986 対話状況における聞き手の相槌が対人魅力に及ぼす効果 The Japanese Journal of Experimental Social Psychology, 1986, Vol. 26, No. 1, 67-76 /木村昌紀、余語真夫、大坊郁夫 2005 感情エピソードの会話場面における表出性ハロー効果の検討 感情心理学研究 2005 年第 12 巻第 1 号 12-13